

移住者同士が思いを語り合う 移住者交流会が開かれました



カード交換会では話が弾み、思い思いに語り合う様子が見られました

11月7日、交流センター「ふれ愛館」で、移住者交流会が開催され、26人の移住者が参加しました。交流会では、参加者全員の自己紹介終了後、よりお互いを知るための「カード交換」や、情報共有のための「村内お勧めスポットの紹介」などを行いました。

初めは緊張した様子を見せていましたが、次第に打ち解けて会話が弾むようになり、胸の内や今後の人生などについて、時間いっぱいまで話し込み、貴重な時間を過ごしていました。

「わくわく」を創り出そう！ 事業を提案・実施する協議会の船出



活発に意見を交わしました。リモート会議のシステムを使って県外在住の委員も参加します

10月25日、令和3年度第1回「いいいてわくわく推進協議会」がビレッジハウスで開かれました。この協議会は、6次総のコンセプトを基に「ふるさとの担い手」達が自由に意見を交わし、生まれたアイデアから事業を提案、その実現を目指します。委員長には大井利裕さん(草野)を選出。事業の検討では、気候を生かしたおいしい作物、家庭に伝わる料理、自然や景観など飯館村の魅力が次々に語られ、それらを生かすアイデアをふくらませました。第2回会議は12月2日に開催され、さらに話し合いを深めています。

生涯学習講座「藍染教室」 染色の楽しさを味わいました



美しい「染色模様」が現れるのを楽しみに、染める前の作業を丁寧に進めます

11月12日、交流センター「ふれ愛館」で、生涯学習講座「染色を楽しむ藍染教室」を開催しました。講師は高木久子さん(大倉)です。

14人の参加者は、染色の方法や手順について説明を聞き、早速作品作りに挑戦です。染めない部分が模様になるので割り箸や輪ゴムを使って布のあちこちをしぼり、手順に沿って藍で染めていきます。エコバッグやハンカチなどを染色し、それぞれがオリジナルの作品を作りました。

二宮尊徳翁の報徳思想に学ぶ 『全国報徳サミット』



希望の里学園の卒業生で福島市の高校に通う渡邊諒介さん(写真)と杉岡村長が村役場から参加しました

江戸後期に諸領の財政再建・農村復興(報徳仕法)にまい進した二宮尊徳翁(二宮金次郎)。指南を受けた地域は全国600か所にのぼると言われています。その報徳思想を受け継ごうと、ゆかりの市町村が毎年持ち回りで開催しているのが「全国報徳サミット」です。今年は静岡県掛川市の主催で11月6日に開催され、飯館村を含む全国17市町村の高校生らが、「報徳思想から考える 私たちの社会の未来」をテーマにオンラインでリレートーク。その様子を動画共有サイトYouTubeでライブ配信しました。

スポーツトラクター寄贈式 NTTドコモ 社員募金の贈り物



11月19日『いいいてスポーツ公園』での贈呈式。村からは感謝状と記念品を

『NTTドコモ』から村へ、スポーツトラクターを贈っていただきました。同社は、東北被災3県と全国の自然災害被災地へ、全国約6,000人の社員の募金を元に寄付を行っています。

目録贈呈を行った高田博樹福島支店長は「スポーツ交流によるコミュニティの活性化、健康増進に役立ててほしい」とあいさつ。杉岡村長は、震災直後から続く支援に感謝を伝え、村民と共に前進していくことを誓っていました。

飯館分署が関係機関と連携し 秋季火災予防運動を実施



「秋季全国火災予防運動」に合わせ飯館分署を中心とした火災予防活動が村内各所で行われました。11月7日には飯館村消防団と「防火パレード」を実施。消防団が各行政区に分かれて「火の用心」を呼びかけました(写真1)。また、女性消防隊とは、住宅用火災警報器のPR活動(写真2)。飯館村社会福祉協議会とは、高齢者世帯を訪問し暖房器具や台所など火を使う場所を点検しました(写真3)。その他、危険物運搬車両が基準を満たしているかを確認する特別検査も実施しました(写真4)。